

01

嚥下調整食分類 2021

嚥下に問題のある患者さんの、摂食嚥下アプローチを考える上で、食形態の選択に悩むことがあります。そんな時に有用な、嚥下調整食分類について紹介します。

「嚥下調整食分類 2021¹⁾」は、嚥下調整食の食事・とろみの程度についての基準です。

嚥下調整食の段階を示した「食事」はコード 0～コード 4 の 5 段階に分類されています。下記の図 1 のように分類がピラミッド状になっているのが特徴的です。0 から 4 段階まであり、P2 に示す摂食フローチャートに沿って嚥下状態を評価し、患者さんに適した嚥下調整食を選択するのがポイントです。数値が高くなるほど舌や噛む力などが十分に必要になってきます。



※ 0 j と 1 j の j はゼリー 0 t の t はとろみを表す

図 1 日本摂食嚥下リハビリテーション学会による嚥下調整食分類 2021¹⁾ 写真の表示など当方で改変

嚥下調整食分類 2021 を使用することで、多職種での共通理解が可能です。また転院・退院時における申し送り時においても、上記の分類を使用し、現在の食事形態を伝達することが可能となり、次施設でも安全な食事の提供が行えます。

臨床使用にあたっては「嚥下調整食学会分類 2021」(文献 1) を必ずご参照ください。